

平成21（2009）年度 第3四半期業務報告

添付資料

- 資料1 21年度第3四半期 主な受賞番組
- 資料2 21年度「放送局のちから」活動事例
- 資料3 「改革推進プロジェクト」等の開催状況
- 資料4 NHKオンデマンド主要数値



日本放送協会

(資料1)

＜平成21年度 第3四半期 主な受賞番組＞

- ABU 賞
 - ABU 賞 (ドラマ番組部門)
 - 天地人 第2回「泣き虫与六」
 - ABU 賞 (スポーツ番組部門 オープニングタイトル)
 - 第8回天皇杯全日本サッカー選手権大会決勝 ガンバ大阪対柏レイソル

- ATP 賞
 - 最優秀賞 (ドキュメンタリー部門)
 - BS世界のドキュメンタリー シリーズ四川大地震 被災地は今「第2回 李先生と30人の子どもたち～紅白中心学校～」
 - 最優秀賞 (情報バラエティ部門)
 - 笑劇開演～小林賢太郎テレビ～
 - 優秀賞 (ドラマ部門)
 - ドラマ8「キャットストリート」全6回
 - 優秀賞 (ドキュメンタリー部門) 総務大臣賞
 - BS世界のドキュメンタリー「いのちの声～コロンビア誘拐被害者へのラジオ放送～」
 - 優秀賞 (ドキュメンタリー部門)
 - ハイビジョン特集「初女さんのおむすび～岩木山麓・ぬくもりの食卓～」
 - ETV 特集「全身漫画家～真説・赤塚不二夫論～」
 - 優秀賞 (情報バラエティ部門)
 - 絵金伝説～幕末土佐を生きた闇の絵師～
 - アレ今どうなった?全8回
 - 総務大臣特別賞
 - 迷宮美術館スペシャル「珠玉の名画大集合 美の秘密を解き明かせ！」

- 国際ドラマフェスティバル in TOKYO
 - 優秀賞
 - 特集ドラマ「お買い物」
 - ローカル・ドラマ賞
 - NHK 仙台放送局開局80周年記念ドラマ「お米のなみだ」

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭
 - 特別賞 (国際コンペティション部門)
 - 市民賞 (観客が一番印象に残った作品に投票して決まる賞)
 - ハイビジョン特集 シリーズ東京モダン「ナオキ」
 - 特別賞 (アジア千波万波賞)
 - ハイビジョン特集 シリーズ新中国人Ⅱ～オリンピックの年に～「ハルビン螺旋階段」

- 2009年度グッドデザイン賞
グッドデザイン賞（ネットワーク領域－メディア）
天才てれびくん MAX ビットワールド～緊急生放送！過去と現在ふたつの部屋～
- ゴールデンチェスト国際テレビ祭
グランプリ＜最優秀賞＞（テレビレポート部門）
NHK スペシャル「激流中国 病人大行列～13億人の医療～」
- インド CMS VATAVARAN－環境と野生生物フィルムフェスティバル
今年のテーマ（持続可能なテクノロジー部門） 最優秀作品賞
NHK スペシャル「映像詩 里山 森と人 響きあう命」
- 釜山国際映画祭
ニューカレンツ賞、FIPRESCI 賞（国際映画批評家連盟賞）
僕たちのキックオフ
- 国際エミー賞
コメディ部門 国際エミー賞（部門最優秀賞）
特集「星新一ショートショート」
- 「地方の時代」映像祭
優秀賞
沖縄 慰霊の日特集「“集団自決”戦後64年目の告白～沖縄・渡嘉敷島～」
奨励賞
ハイビジョンふるさと発 シリーズ格闘2008「底辺からはいあがれ～富山・元“ホームレス”たちの第一歩」
- シカゴ国際子ども映像祭
テレビ向けアニメーション部門 最優秀賞
みんなのうた「PoPo Louise（ポポ ルイーズ）」
- 国際水中映像祭
観客特別賞
NHK スペシャル「謎の海洋民族 モーケン」
- ミラノ国際スポーツ映像祭
テレビショー・ニューテクノロジー部門 奨励賞
「SAMURAI SPIRIT－KENDO（剣道）」

- 文化庁芸術祭
 - 【テレビ部門】大賞
広島発ドラマ 「火の魚」
 - 【テレビ部門】優秀賞
ドラマスペシャル 「白洲次郎 第1回 カントリージェントルマンへの道」
 - 【テレビ部門】優秀賞
NHKスペシャル 「日本海軍 400時間の証言 第2回 特攻 “やましき沈黙”」
 - 【ラジオ部門】大賞
FMシアター「風に刻む」
 - 【ラジオ部門】優秀賞
FMシアター「鳥」

- 高柳記念奨励賞
NHKスペシャル「病の起源 第4集 読字障害 ～文字が生んだ病～」

- 第6回中国国際アニメ・デジタルアートフェスティバル
テレビ番組部門 奨励賞
プチプチ・アニメ「ニャッキ！（37） 雪だるま」



ABU賞（ドラマ番組部門）
天地人 第2回「泣き虫与六」



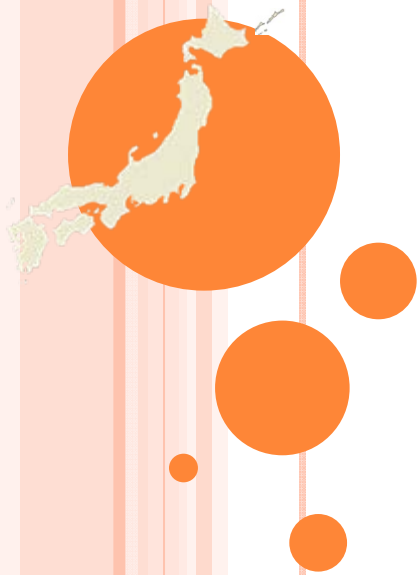
国際エミー賞
特集「星新一 ショートショート」



文化庁芸術祭（テレビ部門）大賞
広島発ドラマ「火の魚」

(資料2)

平成21年度 「放送局のちから」活動事例



【北海道ブロック】

放送局のちから



●札幌局

・「まるごと体感!北海道」キャンペーンを全道で展開

ラッピング中継車で『北海道』の魅力をアピール。道内各地で放送やイベントを集中的に展開し、ホームページやデータ放送なども活用して接触者率の向上につなげた。(5月函館、6月釧路・根室、10月帯広、11月旭川、12月室蘭)

●函館局

・函館開港150周年記念イベントで 3万人とふれあい

「NHKファミリーランド」、「ステージショー」、「FM公開生放送」で受信料の理解促進と接触者率向上につとめた。8月8日～16日の9日間「NHKファミリーランド」など関係イベントの参加者は、3万人を超えた。このほか10月の「生活ほっとモーニング・とっておきの旅」、11月の「BS日本のうた」などで函館の魅力を全国発信した。

●旭川局

・47市町村の魅力を紹介する「わが街のいちおし!」を放送

12月末時点で40市町村を154回放送。経理職員もディレクター(18市町村)を担当するなど全局体制で取り組む。11月の旭川スペシャル月間では、20市町村を全道放送で紹介し、地域活性化に寄与した。

●帯広局

・地元の美術館と連携し「ふれあいイベント」を展開

「日曜美術館セミナー」や「親子による絵皿作り教室」などのイベントで新たな視聴者層とのふれあい活動を推進した。多様な機会を捉えてふれあいミーティングなどを実施でき、NHKの業務に対する理解促進につながった。





【北海道ブロック】



- 釧路局
- ・「NHK公開講座」と「番組上映会」で地域活性化

北海道内で初めて地元大学との「公開講座」を実施し、12月までに全6回、のべ250人が受講。半年で8回開催した「番組上映会」は、地域への出前上映会も含め、のべ500人が参加。NHK職員のノウハウと過去の番組を活用した地域密着の取り組みで、新たな形で釧路・根室地方に“放送局のちから”をアピールした。



- 北見局
- ・ローカル番組やスポットで地域の魅力や視聴者の声を紹介

オホーツク地域の自然や魅力を伝えるミニ企画や視聴者参加のスポット「みんなのこえ」を放送し、身近なNHKの存在をアピールした。「みんなのこえ」の参加者は、12月末までに670人となり、地域のみなさまとの結びつきが深まった。



- 室蘭局
- ・“地デジPR隊”による放送連動で普及活動

各部から参加した地デジPR隊がすべての市町村を訪問し、放送と連携したマルチ展開による地デジ普及活動を実施中。放送連動の活動は年度後半から開始し、自治体主催のスポーツ行事に職員が参加したり、1分スポットやニュースでも紹介して普及効果が上がっている。





【東北ブロック】



- 仙台局
- ・懐かしのレコード2万4千枚を仙台市に寄贈、文化活動に貢献

レコードは、かつては音楽番組の主役だったが、今ではCDの普及によってほとんど使われなくなった。仙台局では倉庫に眠っていた2万4,000枚のレコードを10月、仙台市に寄贈した。仙台市からは「音楽文化の発展に有効活用したい」と感謝された。これを記念してレコードの音色を味わうFM公開生放送を実施した。



- 秋田局
- ・会館公開やイベントなどで13万人とつながり

秋田局では様々な形で視聴者と直接つながる取り組みを進めてきた。その結果、毎月平均1万3,000人の来館者があったほか、会館移転一周年の記念イベント「エキヨコ夏祭り」には1万3,500人が訪れた。イベントなどに直接足を運んでいただいた人は12月末までに13万人になり視聴者との絆を強めることができた。



- 山形局
- ・独自制作のドラマなどで局内や視聴者との連帯感を高める

山形局では、町おこしを目指す若者達を描いたドラマ「スキップ！」を独自に制作した。ドラマでは地元の人達がエキストラとしてボランティアで参加してくれた。また方言を使った番組「今夜はなまらナイト」を開発し放送した。これらの番組作りは局をあげた取り組みとなり、局内の連帯感や視聴者とのつながりが強まった。



【東北ブロック】



●盛岡局

・「いわてみんなのうた “たらしら”」が県内で大ブーム

盛岡局放送開始70年に合わせてスタートした「いわてみんなのうた」。その中の1曲「たらしら」が人気を博し、曲が流れると子供たちが一斉に踊りだす現象まで生まれた。全国版のエンターテインメント情報誌では2009年の岩手の流行語としても紹介された。



●福島局

・TV50周年を記念して放送連動型の会館公開を2回実施

ラジオの人気番組「文芸選評」「歌の日曜散歩」の公開生放送や地域番組の収録など番組連動によって、これまでで最高の6,100人の来館者を迎えることができた。平成23年には開局70年を迎えることから、これに向けて郡山支局といわき支局でも、様々なイベントを展開する予定だ。



●青森局

・太宰 治生誕100年に合わせて市民参加の舞台朗読を開催

公募出演者100人と地元の演出家が稽古を重ねた舞台朗読劇「走れメロス」で観客とも一体となった“つながる場”を創出。8月には総合テレビで放送した後、9月にも「太宰治生誕百年特集」として関連番組とともに特集編成して、接触者率の向上と地域とのつながりの強化に努めた。



【関東甲信越ブロック】



●長野局 ・視聴者と“つながる”自転車の旅

10月の4日間、夕方6時台キャスターが自転車で地域を巡る新しい移動スタジオを放送し、沿道157キロの視聴者から大きな反響を呼んだ。翌週の金曜8時台に放送した「総集編」も視聴率10%を超える大きな反響があり、視聴者との結びつきを深めた。



●新潟局 ・大河ドラマ「天地人」をイベントや3-Screensで多角的に展開

「朗読天地人」や番組鑑賞会、コンサートなどのイベント、また、HP、携帯メルマガなどの多角的な展開で、県内平均38%という高視聴率を獲得した。「天地人」ホームページやメルマガについては、視聴者から好評のメールをいただくなど、新潟局のアクセス増に大いに貢献した。



●甲府局 ・新キャラクター“しんげん君ファミリー”が地域の顔に

しんげん君、かんすけ君、ぶど雄、もも姫の4人が地デジの普及とふるさと応援隊として活動をスタート。地域の様々なイベントに参加して地デジ普及をPRしている。キャラクターを使った「地デジ普及スポット」も放送を予定している。



【関東甲信越ブロック】



●横浜局

・22年度新会館移転を前に、N響を招き“ありがとうコンサート”開催

地域のみなさまへの新会館PRとこれまでの感謝の気持ちを込めたイベントとして企画し、全局体制で取り組んだ。12月に2日間開催して約200人の来場者を楽しんでいただき、多くの好評意見を得た。あわせて、「地デジ相談会」や「ふれあいミーティング」を実施した。



●前橋局

・ブラジル人との共生をめざしたHP、イベント展開

公開HPでの情報発信をポルトガル語でも始めた。また、番組を見る会や日系ブラジル人社会との交流を深める取り組みを進めた。11月8日の番組上映会とふれあいミーティングには、ブラジル人40人を含む60人が参加し、「ポルトガル語での情報発信を知ることができて良かった」などの貴重な意見や要望をいただいた。



●水戸局

・地デジ県域放送開始5周年！多彩な放送やイベントを展開

全局体制で番組キャラバンや会館公開などを実施し、身近なNHKを幅広い世代にアピールした。会館公開イベントの「基礎英語3」の収録には、水戸市内の12の中学校から50人の中学生が参加し、ゲストのパックンマックンと楽しみながら英会話を学んだ。

【関東甲信越ブロック】

●千葉局

・新FM公開番組で「もっと身近にNHK」をアピール

千葉ゆかりの著名人を招く公開トーク番組を新設し、年間10回程度放送。地域の祭りにも出向いて放送し、接触者率向上を図っている。祭り会場での収録は、これまでNHKとの接点が少なかった視聴者に対しても、NHKの取り組みをアピールする絶好の機会になった。



●宇都宮局

・小学生はNHKをどう見ている？“子ども番組審議会”で意見交換

子どもたちの番組への純粋な視点を理解し、今後の接触者率の向上と番組作りに役立てるため、“子ども番組審議会”を開催した。小学生10人との楽しい意見交換で、意外な指摘や感想が活発に出された。



●さいたま局

・連続テレビ小説「つばさ」 ファンミーティングやご当地サイトで地域貢献

ドラマエンド5秒に登場した県民155組やご当地グルメをホームページで紹介。8月1日、ドラマの舞台地・川越市で実施した「ファンミーティング」には、約1,200人が参加した。「つばさ」を通じた地域貢献に対して県知事から感謝状が贈られた。



【東海・北陸ブロック】



●名古屋局

・「夏の北アルプス ああ絶景！ 雲上のアドベンチャー」を全国発信

北アルプス縦断で大きな反響を呼んだ番組に連動して、登山に挑戦したキャスターのブログや視聴者の応援メッセージなどをHPで紹介。その集大成として、地デジ普及イベント、番組上映会やふれあいミーティングも開催するなど活発な視聴者活動を行った。



●金沢局

・「視聴者のみなさまと語る会in金沢」で充実した討議

これまで各放送局で開催された中で最多に近い67名が参加。参加者から「非常に充実した討議ができた」と高い評価を得た。終了後に地元ニュース・番組のキャスターによるトークショーを行い、ローカル番組をPRするなど視聴者の意見要望をうかがった。



●静岡局

・「防災」放送局として防災企画を放送し、ホームページにも展開

夕方6時の「たっぷり静岡」で“防災一口メモ”などの防災企画を毎週放送。ホームページの「防災ポータル」サイトでも災害時に役立つ知識・情報を提供し、地域の放送局としての役割を果たしている。

●福井局

・ニュースザウルスと新キャラ・一福丸(いっぷくまる)で接触者率アップ

夕方のニュース情報番組のリニューアルや、学生と共同開発したキャラクターの名前を視聴者から公募したり、それを利用した番組展開を図るなどの取り組みを通じて、視聴者層の拡大に努めた。



【東海・北陸ブロック】



●富山局

・“来て 見て 地デジ。NHK地デジランド”を実施。ポータルサイトも開設

富山市の地デジ普及促進イベントには2日間で5,000人が参加。“富山県民も知らない富山の魅力”をデジタルならではの双方機能を使ってクイズ番組を公開生放送したり、技研の機器公開で地デジを体験してもらった。ローカルニュースで放送した「ひとロメモ」を動画で掲載するポータルサイトも開設し、地デジ普及につとめた。



●津局

・地域の元気を発信します！

県域ニュースの新コーナー「ふるさとにQ」スタート

「ふるさとにQ」は、県内29市町を毎月ひとつ取り上げ、その魅力を紹介する新企画。3年間かけて、県内の全市町村を紹介し、地域の活性化に全局体制で取り組んでいく。データ放送、HP、携帯サイトへも展開して地域貢献をはかるとともに、接触者率向上に取り組む。



●岐阜局

・“子育て支援キャンペーン”で視聴者から高い評価

自治体と協力して子育て支援キャンペーンを展開。大学やNPOとも連携し「子育て支援放送懇話会」を作り、企画ニュースを放送したり、放送会館に「キッズランド」を設けたり、「アーカイブス子ども番組上映会」を開催し、視聴者との結びつきを深めている。独自の満足度調査を行ったところ、特番で88%、イベントでは98%の満足度を獲得。今後のキャンペーン展開に効果的につなげていく。



【近畿ブロック】



- 大阪局
- ・春秋2回開催で13万人来場！“BKワンダーランド”

春は連続テレビ小説の歴代パネル展や歴史番組のスタジオセット公開、新規層開拓の「アニソンのど自慢」などで8万8,432人が来場。秋は「ウェルかめ」イベントで4万673人が来場した。若者が多数参加し、接触者率向上に資するイベントとなった。



- 京都局
- ・放送、イベントと連動した大学生への受信料の理解促進

学生が主催したイベント会場の大学キャンパで「英語でしゃべらナイト」、「@キャンパス」、「今夜も生でさだまさし」、「がくた2009」の4番組を収録・放送した。大学との関係も深まり、公共放送の役割や受信料制度への理解促進にも効果が上がった。



- 神戸局
- ・阪神・淡路大震災15年に向け地元紙と共催でイベントを展開

災害時も含めた情報発信強化のため、地元神戸新聞と連携し、共通課題である震災に関するフォーラムを開催。“減災社会”の実現と報道の役割をテーマに真剣な議論が交わされた。参加者からは「大変役立った」という声が多かった。また、「震災の絵」展も開催し、被災体験を多くの人に伝えた。

【近畿ブロック】



●和歌山局

・フォトコンテストによる「わかやまカレンダー」でCS活動展開

視聴者が撮影した写真を使ってカレンダーを作成。地域の魅力が伝わる低コストな広報グッズとして、視聴者意向収集などに幅広く活用した。入選作品は、夕方の地域情報番組やホームページで紹介し、会館ギャラリーで写真展も開催した。



●奈良局

・新番組「やまとの国宝」がスタート！地域の魅力を発信

遷都1300年祭にあわせ、古都・奈良ならではの番組として10月から近畿ブロックで放送を開始した。奈良県の国宝を5分で紹介する定時番組で、一部全国放送も展開し、奈良の魅力を関西・全国へ発信。今後、ウェブでの動画配信など3-Screens展開の充実も図っていく。



●大津局

・環境HP“びわエコ”で環境こだわり放送局をアピール

環境ホームページを独自に立ち上げた。風景写真の募集や、環境クイズ、エコ団体紹介、ブログ等で環境保護への取り組みをアピールしていく。環境関連の情報を発信しつつけることで環境問題に重点的に取り組む局としてのイメージアップにつなげていく。

【中国ブロック】

●広島局

・“NO MORE HIBAKUSHA”

中継とウェブで各国のヒバクシャの声を世界に発信

核・平和特集番組「ノーモア・ヒバクシャ～核兵器のない世界をめざして～」とウェブサイトが連携し、核廃絶のメッセージを世界へ発信。ウェブサイトには国内の他、世界56の国と地域から多数のアクセスがあり、多くの評価の声が届いている。今後は、個別に制作している「核・平和」関連サイトを整理・統合し、「核・平和ポータル」への発展をめざす。



“NO MORE HIBAKUSHA” ホームページより

●岡山局

・放送と連動した「地デジわくわく広場」で地デジ普及

局内横断プロジェクトで放送と連動した出張型イベント「地デジわくわく広場」を展開している。今年度は、12月末までに3か所で開催した。中継車見学やデジタル放送体験コーナー、キャスター体験などを楽しみながら、直接NHKに触れていただくことで地上デジタル放送への理解促進を図るとともに、接触者率の向上につなげている。



●松江局

・「アラハタ！」若者からの投稿番組で接触者率向上へ

若者からの投稿でテーマを決める番組「アラハタ！」(アライウンド ハタチ)の放送を開始。斬新でタイムリーな番組内容とHPによる動画配信との連携で、接触者率の向上に努めている。番組では、同世代のグループに番組を視聴してもらい、その感想・意見を番組の最後に紹介するなど双方向感も持たせており、今後も新たな企画を検討していく。





【中国ブロック】

NHKラジオの夜間混信でお困りの方に、お知らせです

**NHKラジオ第1放送が
ケーブルテレビでもお楽しみいただけます**

播磨管内の下記のケーブルテレビでは、平成21年6月からNHKラジオ第1放送を再送信しています。

- 日本海ケーブルネットワーク（株）
- （株）鳥取テレビ
- 鳥取中央無線放送（株）
- 和歌山有線テレビジョン放送

受信方法は…

ケーブルテレビでのFM放送受信と同じです

NHKラジオ第1放送をFMに受信して放送していますので、受信するにはFMチューナー、FMラジオなどのアンテナ接続端子にケーブルテレビ線を接続して、周波数を「88.8MHz」に合わせてお聞きください。

詳しくは、ご記入（お住まいの地域）のケーブルテレビまたはNHK放送局までお問い合わせください。

●鳥取局 ・視聴者の声に応え「R1 再送信サービス」でラジオ混信を解消

外国電波によるラジオの混信解消に向け、県内すべてのケーブルテレビ（4社）で、ラジオ第1の再送信を実現した。この取り組みに対して視聴者から「クリアに聴けるようになった」など、感謝の声が多く寄せられており、地域のニーズに確実に応える結果となった。



●山口局 ・7・21水害で”3-Screens展開” 携帯・HPで水害生活情報を提供

死者17人が出た7月の大水害で、営業や企画総務、編成の職員が交通・給水などの生活情報を収集してHPと携帯で提供し、ラジオでも放送した。「県民が一番気にかけている知りたい情報を伝えてもらった」、「被災者を支援する情報がきちんと伝えられて頼もしかった」など、災害報道を評価する声が多く寄せられた。関連サイトへのアクセス数は、HPが3万3,639ページビュー（10日間）、携帯サイトは2万1,588ページビュー（10日間）を記録した。

【四国ブロック】



- 松山局
- ・「ドラマチック！四国キャンペーン」全国発信で地域を元気に

「ウエルかめ」「坂の上の雲」「龍馬伝」の3大ドラマで四国が舞台になるのを契機に、四国各局で放送、イベント、ウェブなどの多角的なキャンペーンを展開。地域を元気にし、四国の魅力を全国に発信して接触者率の向上を図った。



- 高知局
- ・参加者公募で番組上映会とふれあいミーティングを定期開催

高知にちなんだ番組やリクエストの多い番組の上映会とふれあいミーティングを毎月1回実施している。第1回上映は昭和43年放送の「龍馬がゆく」。毎回、出席者は30人前後。高齢者が多いことから、意見・要望を伺うほかに、地上デジタル放送を体験してもらったり、受信相談なども丁寧に行い、地域に役立つ放送局を目指している。



- 徳島局
- ・「ウエルかめ」に連動した番組やイベントで徳島の魅力を全国に発信

「ウエルかめ！徳島」キャンペーンとして、「なみちゃんを探せ！」「ウエルかめメッセージ」などの企画番組や1分スポットを制作。さらにイベントやウェブサイトを充実させて、全局体制で視聴者層の拡大を図るとともに放送局の存在感を高めた。



- 高松局
- ・地域特集番組「笑って うたって しあわせ家族」で連携

県民が楽しめる地域密着型の歌番組「笑って うたって しあわせ家族」は立ち見が出るほど人気が定着。山本譲二さんと鳥羽一郎さんが歌うオリジナルテーマソングも好評を博し、受信料制度への理解促進などに効果をあげている。



【九州ブロック】



●福岡局

・「若者の孤独死」の問題をクロ現に展開し、若年層から大きな反響

地域放送番組から展開したクローズアップ現代の「“助けて”と言えない」が年間最高視聴率を記録、若年層の関心が高く、30代の視聴者が普段の4倍近くになった。放送後も多くのブログで取り上げられるなど同年代の人の共感を得て接触者率向上に寄与した。



●北九州局

・市民参加の手作りコンサート「サンデーコンサート」を出前展開

北九州局ロビーで平成15年から毎週開いている市民参加による「サンデーコンサート」。今年度は、遠隔地の小学校にこちらから出向いて開催し、好評を得た。放送体験教室も併せて実施し、視聴者満足向上にも取り組んだ。



●熊本局

・「夢一座 村が燃えた日」で地域応援をアピール

村人たちが素人劇団を結成する趣向のイベントを開発して放送し、「地域応援番組として元気づけられた」との好評を得た。施設がないなどの理由で20年間公開番組の実績のなかった山間部の産山村で公開番組の収録を実施した。番組の視聴率は前編が11.1%、後編が10.3%とよく見られ多くの視聴者から共感を得た。

【九州ブロック】



●長崎局

・大河ドラマ「龍馬伝」を手がかりに地域活性化の取り組み

部局横断の龍馬プロジェクトを設け、“長崎と龍馬”をテーマにした特集番組、会館公開、HPなどで「龍馬伝」の認知を高めるとともに、長崎をアピールしている。ドラマの制作状況伝えるレポートには関心が高く、「龍馬伝」の認知度は83%に達している。HPへのアクセスも多い日は1万件を超えている。



●鹿児島局

・桜島噴火情報の3-Screens展開で防災報道を充実

視聴者の要望に応じて、降灰と密接な「桜島上空の風向き」情報を増やすとともに、地域の診療所や災害時の避難所などの防災関連情報を充実させた。今後はHP展開や「お知らせ噴火」(データ放送)を開発予定。HPや携帯での情報提供も図り3-Screensを推進する。また、民放と共同で「火山防災シンポジウム」も開催する。



●宮崎局

・番組「宮崎神楽」の番組収録と連携し山間地で地デジ周知活動

“宮崎の宝”である各地の夜神楽をハイビジョン収録。神楽が盛んな中山間地に向き、番組と連動して地デジの整備普及、営業支援、さらに出前型のふれあいミーティングを効率的に展開している。宮崎局のふれあいミーティングの実施回数は全国1位となった。(12月末まで114回開催し、2,768人が参加。)

【九州ブロック】



- 大分局
- ・温泉天国・大分の魅力を全国に向けアピール

絶対ふるさと主義など様々な番組で県内の温泉地を紹介。データ放送でも情報発信予定。夕方の地域情報番組「おおいたホットニュース」で毎週放送している「湯ったり出会い旅」の情報を大分局HPに掲載し接触者率の向上を図っている。



- 佐賀局
- ・エリアワンセグサービスが全国の放送局に拡大

微弱電波でアンテナ周辺のワンセグ携帯に動画を配信するシステムで、公開番組収録の様子を参加者に動画配信。地デジのPR・普及に貢献した。このサービスは、福岡局、仙台局など全国の放送局へも広がった。

- 沖縄局
- ・地デジ普及大作戦。地域色たっぷり、歌と笑いで地デジをPR

沖縄市で、デジタル中継局の開局に合わせて、瀬川瑛子さんらによる地デジ普及イベントショーを開催。1,100人で賑わい、地上デジタル放送の世帯普及率向上に貢献した。沖縄は地デジ受信機の世帯普及率が低いため、今後も公開番組やイベント、独自スポット、地域版パンフレットなどを活用し、地デジPRIに努めていく。



「改革推進プロジェクト」等の開催状況（平成21年度第3四半期）

10月27日 経営委員会に 平成21年度第2四半期業務報告

▽経営委員会への会長報告（案）は、総合企画室〔経営計画〕（現・経営企画局）が、改革推進プロジェクトと連携して取りまとめた。

10月30日 ブロック経営会議（第2回）

▽第2四半期業務報告、上半期の総括から浮き彫りになった経営課題について、経営2目標の達成状況と課題を中心に議論を行った。

▽接触者率の向上については、平成22年度番組改定の議論の状況などを共有した。

▽受信料支払率の向上については、景気低迷の影響などで、平成21年度予算で見込んだ収入確保が難しい状況にあることを踏まえ、地域の現状報告とともに、契約収納体制の強化のための追加施策の取り組み状況や、9月15日の改革推進プロジェクトでの課題提起を受けて募集した「受信料の支払率向上と収入確保に向けたオールNHKの取り組み」の提案について議論した。

▽また、地域の体制強化に向けて、21年度の要員措置や地域充実予算の効果について各拠点局長から報告を受け、それをもとに22年度の地域充実予算の配分のあり方などについて議論した。

▽さらに、改革推進プロジェクトを通して各部局から出された意見や提言を集約した「グループ経営の総合的検討に向けた課題」について共有化を図った。

11月 4日 改革推進プロジェクト本部担当者会議

▽第2四半期業務報告終了直後、「第2回ブロック経営会議」との一連で、本部担当者による改革推進プロジェクト会議を開催した。

▽経営2目標の達成に向けて、第2回ブロック経営会議の議論を共有した。

▽デジタル放送への完全移行に向けた課題と対応について、改革推進プロジェクトの「第6（デジタル移行）分科会」（10月22日）での議論を踏まえ、「2011年完全デジタル移行委員会」で新たに設置することが決まった「放送展開プロジェクト」の活動方針などを共有した。

12月 9日 改革推進プロジェクト全体会議（第6回）

▽平成22年度の予算・事業計画についての議論の現状を共有した。

▽経営計画の達成に向けて、平成21年度部局目標（放送局のちから）の取り組み総括と平成22年度部局目標の設定の進め方について確認を行った。

▽第3四半期業務報告の作業の進め方について確認を行った。

▽前回の改革推進プロジェクト全体会議（9月15日）での課題提起を受けて実施した「受信料の支払率向上と収入確保に向けたオールNHKの取り組み」の提案募集の結果について議論した。本部の各部局と全国の放送局から寄せられた460本の提案を集約・整理してとりまとめた15項目を報告し、実施にあたっての課題などを議論した上で、組織を挙げて取り組むことを確認した。

▽第5回・第6回の「若者トークセッション」で若手職員から提起された課題を共有した。

(資料4)

NHKオンデマンド主要数値 平成21年度第3四半期

